

医療安全をマネジメントシステムで管理する
【医療のための質マネジメント基礎講座】 2019年度 日程表 ①
2019年5月18日(土)～8月31日(土) 7日間 全14回

※1 回毎のご受講も可 **2年間で全14回を修了**されると『医療安全管理者養成研修』の研修証明となる修了証書を発行いたします

- 大学関係者と医療安全管理従事者からなる充実した講師陣
- 講義の他、演習や病院の事例紹介を取り入れ具体的に体得するカリキュラム
- 日々の医療活動にお役立ていただける講座ラインナップ

日	時間	テーマと概要	講師
5月18日(土)	9:30～12:30	【第1回】医療の質マネジメントシステムの基本 -医療の質向上に必要な“標準化”と改善活動を学ぶ- 医療の質向上を進めるためには、標準化と改善活動が必要です。これを組織的に行うには、この講座で学ぶことを用いて、質マネジメントシステムを運用するのが効果的な方法です。そのための基本的な考え方と、医療の質をマネジメントするとはどういうことかを解説します。	早稲田大学理工学術院 教授 棟近 雅彦 大久野病院 進藤 晃 理事長
	13:30～16:30	【第2回】医療の質向上をめざしたQMSの導入と推進 -組織全体でQMSに取り組むためのノウハウを学ぶ- 医療における質向上をめざし、QMSを導入・推進するためにどのようなステップ、観点・活動が必要なのか、実際の導入病院での事例をベースに具体的に説明します。また、講師の経験から、よく挙がる疑問や問題についても取り上げ、解消法についても解説し、導入・推進のステップとともに、組織全体でQMSに取り組むためのノウハウをお伝えします。	明石市立市民病院 医療安全管理室 副室長 田中 宏明 仙台医療センター 総合品質管理推進部 部長 手島 伸
6月28日(金)	9:30～12:30	【第3回】PDCAサイクルによる日常管理の基礎 -医療業務の可視化と改善に必要なPDCAサイクルのまわし方を学ぶ- 【第4回】プロセスフローチャート(PFC)を用いた医療業務プロセスの可視化 -来院から会計まで、普段の診療の流れを書いて学ぶ- 質が高く効率的な医療を提供するには、普段の業務を可視化によって振り返り、改善を重ねる必要があります。しかしながら、医療業務は複雑であり可視化や改善は簡単ではありません。「日常管理の基礎」では、改善に必要な考え方であるPDCAサイクル・プロセス管理を演習を交え学習します。「PFCを用いた医療業務プロセスの可視化」では、患者来院から会計までの診療の流れを実際に書き出す方法を演習を通してお伝えします。普段忙しく追われている日常業務を、一歩ひいて客観的に理解することを体感いただくため、 第3回・第4回は続けてご受講することをお勧めいたします。	東海大学情報通信学部経営システム工学科 准教授 金子 雅明 明石市立市民病院 医療安全管理室 副室長 田中 宏明 前橋赤十字病院 医療安全管理課 坂本 恭子
	13:30～16:30		東海大学情報通信学部経営システム工学科 准教授 金子 雅明 明石市立市民病院 医療安全管理室 副室長 田中 宏明 前橋赤十字病院 医療安全管理課 坂本 恭子
6月29日(土)	9:30～12:30	【第5回】文書管理から取り組む組織基盤構築の推進 -文書管理の不備や非効率を改善し、“標準化”を円滑に進める- 改善しても一向に定着せず長続きしないことがないでしょうか。診療科、病棟、そして個人ごとにローカル・ルールが多く存在し、業務が煩雑になったり非効率になったりしていることはないでしょうか。これらはいずれも院内の文書管理に不備があることに起因しています。本講義では、組織全体として標準化や改善を円滑かつ組織的に進めるために文書をどのように管理すればよいか、第3、4回のPFCとの関係は何か、具体的にどんな文書が必要か、どのように導入・推進していくべきかについて、実践事例の紹介とともに説明します。	東海大学情報通信学部経営システム工学科 准教授 金子 雅明 明石市立市民病院 医療安全管理室 副室長 田中 宏明 川口市立医療センター DPC管理室 藤城 譲 富士ゼロックスシステムサービス株式会社 塩谷 岳海
	13:30～16:30	【第6回】「内部監査」の枠組みを活用した業務改善 -プロセスの視点から組織的に改善する方法を学ぶ- ISO9001では組織の継続的改善のために「内部監査」が必要であるとされています。しかし内部監査を医療で適用するには様々な工夫が必要です。この講座では、特にプロセスの視点で業務の改善をするための方法として「内部監査」をどのように活用したらよいか、第3、4回に作成したPFCを使用して内部監査を体験してもらいます。また実践事例も紹介します。	東海大学情報通信学部経営システム工学科 准教授 金子 雅明 明石市立市民病院 医療安全管理室 副室長 田中 宏明 埼玉病院 副院長 細田 泰雄 前橋赤十字病院 医局診療秘書室 副室長 角田 貢一

受講料： 1講座あたり税込 8,400円(日本品質管理学会医療の質・安全部会員/目白大学関係者は税込 6,300円)

会場： 早稲田大学西早稲田キャンパス

〒169-8555 新宿区大久保3-4-1

■お問い合わせは 早稲田大学内基礎講座事務局(担当:加藤,佐藤 平日10時～16時)

TEL: 03-5286-3304 E-mail: qms-h-secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp まで

■お申し込みはこちら <http://qms-h.org/kisokoza.html>



【医療のための質マネジメント基礎講座】2019年度 日程表 ②

2019年5月18日(土)～8月31日(土) 7日間 全14回 ～医療安全管理者養成研修対応～

※1回毎のご受講も可

2年間で全14回を修了されると『医療安全管理者養成研修』の研修証明となる修了証書を発行いたします

日	時間	テーマと概要	講師
7月26日 (金)	9:30～12:30	【第7回】医療の質・安全保証を実現する患者状態適応型パスシステム(PCAPS) -患者の状態に合わせて医療の質を可視化するツールを学ぶ- 「臨床プロセス」と「業務プロセス」の両者から影響を受ける医療の「質」。これらのプロセスを個々の患者の状態に合わせて可視化するための方法として、患者状態適応型パス統合化システム(PCAPS)について解説します。PCAPSとは「プロセスによる質安全保証」を実践するためのツールです。PCAPSの導入の取組事例もご紹介します。	東京大学大学院工学系研究科 特任教授 水流 聡子 大久野病院 進藤医院 理事長 進藤 晃 (株)麻生飯塚病院 副院長 名取 良弘
	13:30～16:30	【第8回】医療安全管理システムと医療安全に関わる制度 -医療機関における安全管理体制について、病院事例とともに学ぶ- 医療機関における安全管理体制について、制度等の経緯や背景、医療安全管理システムにおけるモデルシステム設計、組織化、普及・実践活動、評価改善の仕組みについて、病院の取り組み事例のご紹介とともに具体的にお伝えします。	東京大学大学院工学系研究科 特任教授 水流 聡子 (株)麻生飯塚病院 副院長 福村 文雄
7月27日 (土)	9:30～12:30	【第9回】“注意不足”にしないためのプロセス型事故分析 -与薬事故事例を中心に、短時間でできる分析手法を学ぶ- 注意不足と書かれたインシデントレポートばかり溜まっていませんか？ 注意不足から一歩踏み込んで、プロセスに着目しましょう。プロセス指向を実践するための与薬事故分析手法を中心に、与薬事故を分析するための手法を解説します。演習もあるので講義の理解を深めていただけます。	千葉工業大学 社会システム科学部 准教授 佐野 雅隆 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子
	13:30～16:30	【第10回】同じ事故を再発させないための対策立案 -エラープルーフ(エラー発生率を下げる作業方法の工夫)を学ぶ- 対策しても、しばらくすると同様の事故が発生していませんか？そんなときはエラープルーフ化の出番です。エラーの発生確率を下げるための作業方法に関する工夫について学び、対策立案方法について、ケーススタディを交えて学習します。	千葉工業大学 社会システム科学部 准教授 佐野 雅隆 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子
8月30日 (金)	9:30～12:30	【第11回】危険予知トレーニング(KYT)手法 -ヒューマンエラーを未然防止し、医療安全力を強化する- 医療の現場において、ヒューマンエラーの未然防止は重要な課題です。ここでは、ヒューマンエラーを未然防止するための危険予知トレーニング手法について、ケーススタディを交えて学習します。また、KYTシートの作成方法や、現場でKYT活動を展開するためのコツをお話します。	早稲田大学創造理工学部 講師 梶原 千里 武蔵野赤十字病院 看護師長 稲吉 礼子
	13:30～16:30	【第12回】転倒・転落事故の防止対策と5Sの実践法 -事故を未然に防ぐためのリスク分類や評価を学ぶ- 医療事故の中で、与薬事故に次ぐ発生件数を数え、事故の影響も大きいのが転倒転落事故です。転倒転落事故を防止するために、リスク分類や評価(アセスメント)を用いた活動について、実践事例を交えてお伝えします。また、事故防止、安全感染防止、顧客満足の上につながり働きやすい職場とするための5S=整理・整頓・清掃・清潔・習慣(しつけ)活動について、病院の導入事例をご紹介します。	武蔵野赤十字病院 医療安全室 看護師長 黒川美知代
8月31日 (土)	9:30～12:30	【第13回】医療の質・安全を高める教育カリキュラムの作成とその実践 -教育不足等の課題解決に向けてカリキュラム立案に必要なツールを学ぶ- 「毎年、教育内容を見直している」「新人職員以外への教育が不足している」といった課題に直面していませんか？このような課題を解決するには、『誰に、どのようなことを教育するか』ということを整理した教育カリキュラムを立案することが重要です。本セミナーでは、医療の質・安全教育カリキュラムを立案するときに活用できるツールを解説します。また、病院の取り組み事例もご紹介します。	早稲田大学創造理工学部 講師 梶原 千里 川口市立医療センター 病理検査部門 部長 坂田 一美
	13:30～16:30	【第14回】問題解決法(QCストーリー等)と組織的改善活動 -効果的・効率的に改善を進めるコツを学ぶ- 改善を進めるには、意欲も大切ですが、役に立つ道具を持っていた方が効果的、効率的に行えます。本単元では、改善を進める際に知っておいた方がよい基本的考え方、問題解決手法であるQCストーリーなどについて解説するとともに、実際に行われている病院での組織的改善活動を紹介し、病院で改善を効果的、効率的に進めるためのコツをお伝えします。	早稲田大学理工学術院 教授 棟近 雅彦 古賀総合病院 ME技術部部长 兼 同心会医療技術支援部顧問 元TQM推進室長 関 孝

受講料：1講座あたり税込8,400円(日本品質管理学会医療の質・安全部会員/目白大学関係者は税込6,300円)
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス

■お問い合わせは 早稲田大学内基礎講座事務局(担当:加藤,佐藤 平日10時～16時)

TEL: 03-5286-3304 E-mail: qms-h-secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp まで

■お申し込みはこちら <http://qms-h.org/kisokoza.html>

